

菜の花 活動報告

活動先の理念

年をとっても、障がいがあっても、誰もが住み慣れた地域で生き生きと暮らせる街づくりを目指す。

一人ひとりの五感を大切に育み、自分自身できることを大切にしている。

活動先の主な活動内容

1. デイ・サービス
2. 介護保険によるケアプランの作成
3. 住宅・福祉・保健相談(高齢者・障がい者)
4. 絵手紙教室
5. 子どもからお年寄り、障がい者の居場所づくり
6. 障がいのある方の社会参加支援

活動目標

- ・利用者の方に、懐かしい遊びや料理などを通して昔のことを思い出してもらい、自分にも出来ることがあるという自信や生きがいにつなげてもらう。
- ・交流を通して利用者の方との関わり方を学ぶ。

参加した活動とその概略

○一日のスケジュール

- 09:30 お迎えの車到着
10:00 スタッフ紹介・バイタルサインチェック・ラジオ体操
10:30 レクリエーション・入浴
11:30 昼食前の口や指の体操
12:00 昼食
13:30 レクリエーション・休憩
15:00 おやつ
16:00 帰りの支度



〈レクリエーションの内容〉

【1日目】お手玉作り

- ・事前に布でお手玉の形を作っておく。
- 1. 小豆を詰めて縫い合わせる。
- 2. 点数の書いた紙をテーブルに置き、お手玉を順に投げてもらい、点数を競う。

【2日目】鬼まんじゅう作り

1. さつまいもを切ってもらい、電子レンジで蒸す。
2. ホットケーキミックスと砂糖、卵を加えて混ぜる。
3. 生地をカップに流し込み、蒸し器で約5分間蒸す。

【3日目】めんこ作り

- ・めんこの柄をプリントしたものと、それと同じサイズのボール紙を用意する。
1. プリントした紙の円の輪郭に合わせてノリをつけ、ボール紙と貼り合わせる。
 2. 完成しためんこを裏返し、二枚とも同じ柄になるように一枚ずつめくり、その数を競う。

【4日目】紙のコマ作り

- ・ボール紙と紙を円形に切り抜き、中心部に穴を開けておく。
1. 紙に色鉛筆で模様を描いてもらう。
 2. ボール紙に紙をノリで貼り付ける。
 3. 穴にマッチ棒をさす。火薬のついたほうを下にする。

【5日目】ちぎり絵

- ・大きな紙にひまわりの絵を描いておく。
1. 描いた絵の上にちぎった折り紙を貼り付ける。

【6日目】五平餅作り(to ピアと合同)

1. もち米を洗い、炊く。
2. 炊き上がったらボウルに移し、スプーンで半分粒が残るくらいまでつく。
3. 2を等分にして小判型に形作る。
4. 味噌に砂糖、すりゴマを加え、味を調える。
5. 3をフライパンで両面焼く。
6. 5の上に4をのせて完成。

印象的だったこと

- ・利用者の方に、自宅に連れて行きたいと言われたこと。

…みんなどう返事をすればよいか分からず戸惑ってしまったが、スタッフの方に、時には断ることも必要だと教えていただいた。その際、本人の気持ちを考えて対応する必要がある。本人の心の中にある寂しさや、今までの生活環境などを理解して接することが大切だということがわかった。

・レクリエーションを通して利用者の方の笑顔が見られたこと。

…五平餅や鬼まんじゅうなど、レクリエーションの中には私たち自身不安なものもあったが、「おいしくできたね。」と笑顔で言ってくださったときは、とてもうれしかった。

・最終日に利用者の方が見送りに来てくれたこと

…6日間という短期間であったため、自分たちのことを覚えてくれているかという不安があった。しかし、活動最終日に利用者の方が玄関まで見送りに来てくださったことがとても印象的だった。

活動を通して学んだこと

・地域に NPO がある必要性

菜の花に通う利用者の大半は、半田市に住んでいる人である。小回りが効き、すぐに地域のニーズに対応したサービスを提供しやすい NPO は、地域で暮らす人々にも安心感を与えることができる。住み慣れた地域で、小規模的にサービスが受けられるということは、利用者一人ひとりに合ったサービスが提供できることであるということを学んだ。

・利用者との関わり方

利用者の方と会話するときは、相手の言いたいことに共感すること、話の内容を深く考えすぎず、気軽に話しかけることが大切である。自分から積極的に話しかけることで、相手も心を開いてくれ、自分から話しかけてくれる。相手の伝えたいことがわかりにくくても、同じ目線に立って、じっくり耳を傾け、聴こうとする気持ちが大切である。

また、利用者の方の言うこと全てを肯定するのではなく、時には正直に答えることも必要である。その際、忘れてはならないのは相手の気持ちである。どんな気持ちから出た言葉なのか、相手の気持ちを尊重し、対応することが大切だと学んだ。

利用者の方によって接し方は異なるため、その人の身体の状態や性格を知り、一人ひとりに合った対応の仕方を考えて接することが大切である。例えば認知症の方は、ケアする側が緊張して接するとそれがストレスになり、さらに関係づくりが難しくになってしまう。そのため、緊張感を持たずにありのままに接することが大切だということを学んだ。また、その場だけ取り繕うような返事をするとうまく相手混乱させてしまうので、丁寧な対応が大切であるということを学んだ。

レクリエーションなどは、利用者の方に楽しんでもらうために、まず自分たちが楽しんでやるのが大切である。

また、利用者の方の行動をよく見て、一つひとつの動作に声をかけながら動作してもらうことが安全につながる。

法人への提言

住み慣れた地域でサービスを受けられるということは、生き生きと暮らすためにはとても良いことだと思った。しかし、6日間の活動の中で、実際に地域の方と菜の花が関わる機会を一度も見ることが出来ず、地域との交流はまだあまり深まっていないように感じた。まずは地域の人たちが気軽に菜の花に足を運べるような環境づくりが大切だと思い、そのために、菜の花が地域の行事などに積極的に参加していくことが大切だと思った。また、自治会などの協力を得て、地域の学校などに対して行事についての呼びかけを行い、「菜の花」という存在を地域にもっと広めることで活動の幅も広がるのではないかと考えた。また、他の小規模多機能型居宅介護を行っている事業所と協力し、イベントなどを考えたり運営したりしていけたら良いと思う。

利用者の家族や、地域に暮らす住民と一緒に話合える機会があれば、地域全体として活動することが出来ると思う。

また、施設の運営状況などを聞くと、決して楽な状況ではないことがわかった。このことから考えても、地域との連携が必要になってくると考えられる。利用者個人を福祉の対象としてとらえるのではなく、「地域とつながりを持った人」として地域とのつながりを含めて利用者をとらえ、問題解決に向けて取り組む必要があるように感じた。

活動目標に対して自己評価

- ・利用者の方の積極的に取り組もうとする姿勢や、生き生きとした表情からやりがいを感じられた。
- ・自分から話しかけることで、その人に合った接し方を考えて接することができるようになった。

後輩へのメッセージ

まず活動前に活動先の理念を理解し、活動先の特徴、地域の様子などを把握しておくことが大切です。また、自分たちの活動目標を明確にしておくと思います。一人ひとりその日の目標を考えるなど、毎回の活動で目的を持って取り組むと良いです。

活動する中でわからないことがあったら、そのままにするのではなく、自分からスタッフの方に聞いてその都度解決して行って下さい。主体的に行動すると、より多くのことを学べます。

利用者の方と接するときは、相手のペースに合わせて笑顔で接することが大切だと思います。相手の気持ちを尊重することを忘れずに、意欲的に活動に取り組んでください。

活動記録は、何を学んだのか、気付いたことなどを具体的に、活動したその日のうちに記入し、次の活動につなげて下さい。